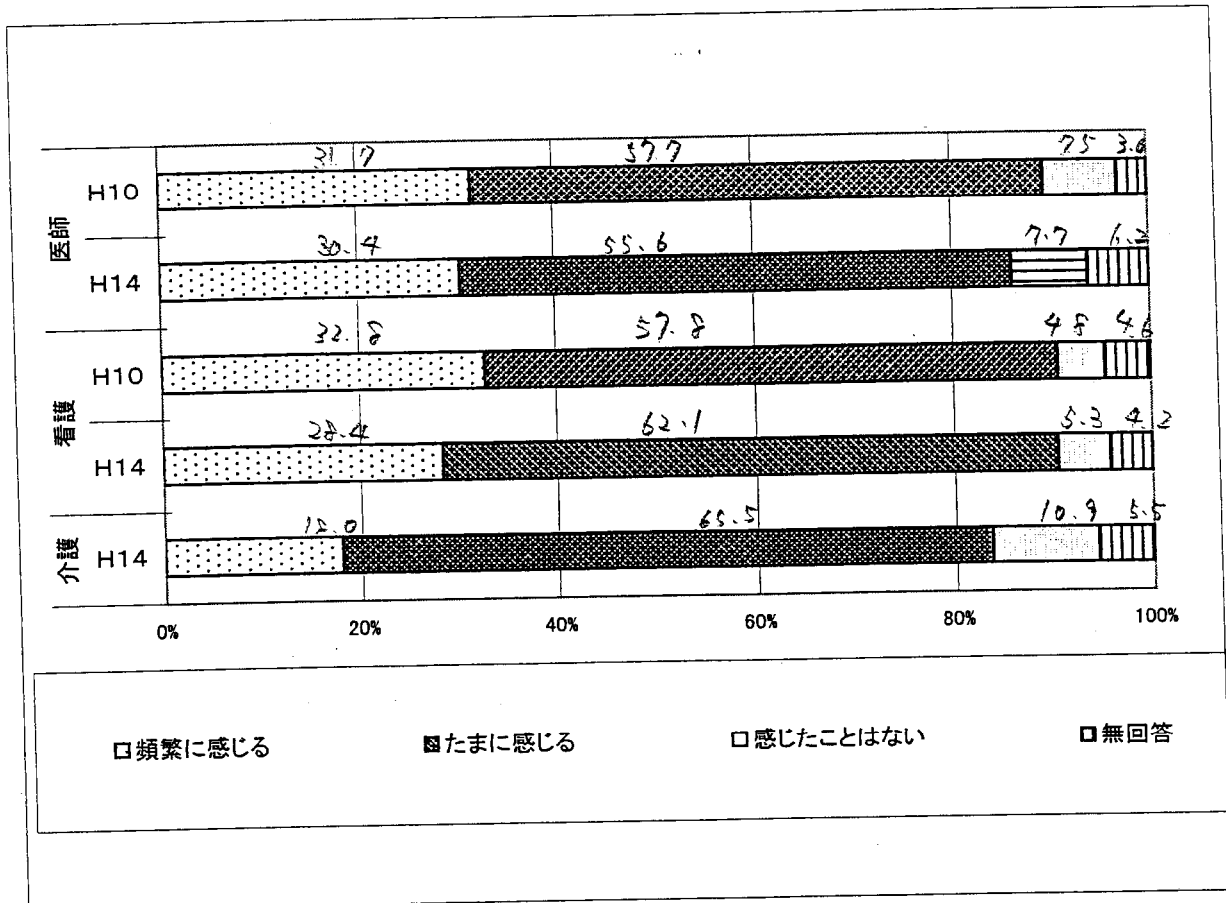


＜終末期医療に対する悩み、疑問＞

終末期医療について、医師、看護師、介護施設職員の多くが、悩みや疑問を「頻繁に感じる」「たまに感じる」としており（医 86% (89%)、看 91% (91%)、介 84%）、医師では「患者へ病名、病状の説明をすること」、次いで「在宅医療の体制が十分でないこと」（各々60%、54%）、看護職員では「痛みをはじめとした症状の緩和」、次いで「病院内の終末期医療施設が乏しいこと」、「在宅医療の体制が十分でないこと」（各々64%、57%、57%）、また、介護施設職員では「痛みをはじめとした症状の緩和」、次いで「病院内の終末期医療施設が乏しいこと」（各々67%、56%）、に難しさを感じている。

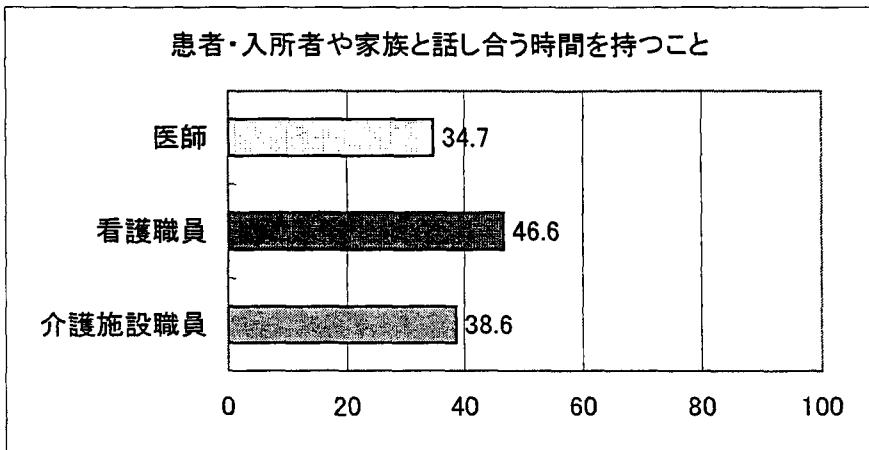
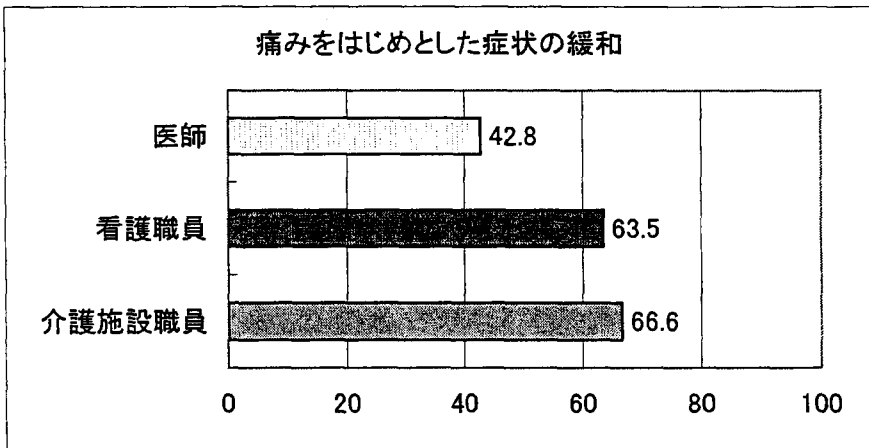
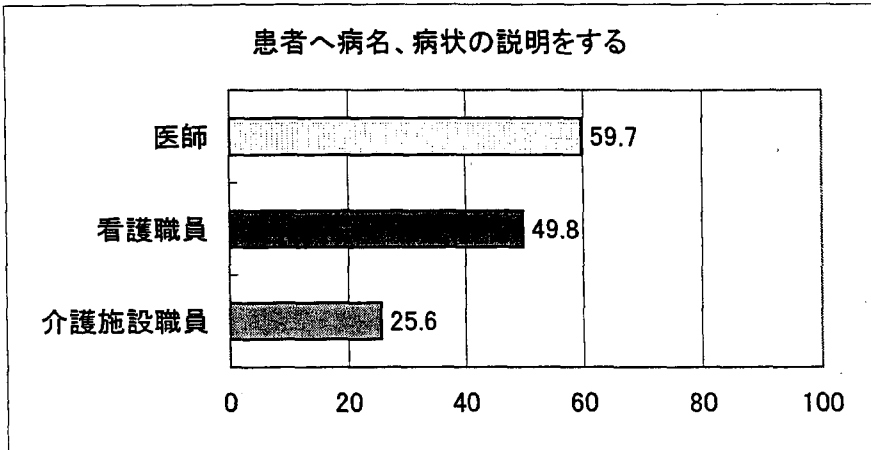
問 あなたは、終末期医療に対して、悩みや疑問を感じた経験がありますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。

問の番号 医師 19 看護 19 介護 19

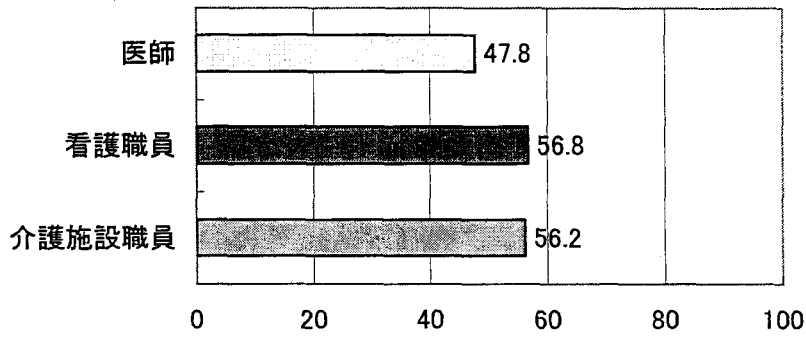


問 痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている（6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定）患者の診療、看護及び介護にあなた自身が携わって、どんな難しさを感じていますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。（○はいくつでも）

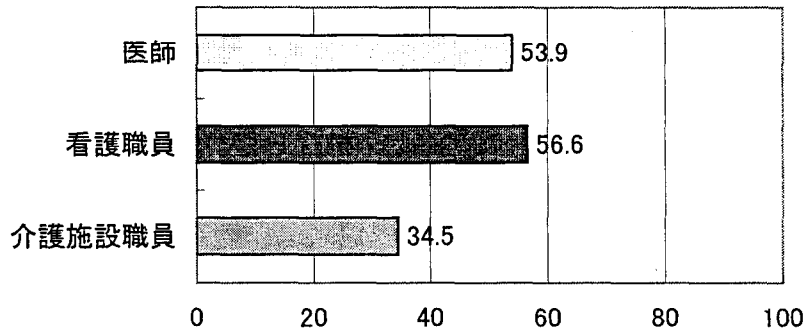
問の番号 医師 19 補問 看護 19 補問 介護 19 補問



病院内の終末期医療施設が乏しいこと



在宅医療の体制が十分でないこと



延命のため医療を中止すること

